

# 人形劇まつり20周年ニュース

## ～ふるさとから未来へ～ やわたを想い愛・感謝を感じよう

初めは2劇団から始まった「やわた人形劇まつり」も今では6劇団に増え、来年平成25年には20周年を迎えることとなりました。それを記念して、7月には20周年記念公演をおこないます。

内容は、私たちの活動の拠点である八幡市に住んでいる人々、そして、八幡市以外の人々にも八幡市ことを知ってもらおうと、八幡の昔話に決まりました。「牛回し」「おみなえし」「鯉ものがたり」の3作品です。『人形とおはなしの会まる』の大原めいさんに演出をお願いし、昨年の9月から活動を開始しました。ふるさと学習館の出口さんに八幡の昔話について聞いたり、松花堂でボランティアをされている、丹波さんに「おみなえし」のお話や「淀屋物語」の紙芝居を見せてもらいました。また、松花堂の石橋さんや生涯学習センターの八十島さんに資料を見せてもらったりお話を聞かせてもらいました。お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

7月の19回やわた人形劇まつりも終わり、9月から本格的に始動開始！

劇団の枠を取り払い、連絡会メンバーが3つのグループに分かれてのお話作っています。観てもらう人に何らかのメッセージを伝えようと、どのグループも作品を通して何を伝えたいのか、心は何か、真剣に考え話し合って台本作りに取り組んでいます。



### 《牛回し》

むかしの農家では、耕運機が普及し始めるまでは牛が飼われ役牛として人々のくらしで活躍していました。そんな飼い牛の健康を願う行事として行われていた「牛回し」にまつわるお話です。

お囃子の軽快なリズムに乗って始まるお話は、大きな仕掛け絵本のような紙芝居に仕上げようと、台本を書き絵を考えているところです。お囃子のリズムも自分たちで考えました。



じゅん・おたけ・ごん・ゆき・ちい・くま

### 《おみなえし》

八幡今田にある「男塚」、松花堂庭園にある「女塚」にまつわる平安初期の叶わぬ恋の物語で、謡曲にもなっているお話です。

悲しくも儂い純愛を語りを中心とした人形劇で表現しようと、夜遅くまで話し合い考えられた台本は、聞いてみると幻想的な世界に引き込まれていくようです。



ひめ・つね・くっさん・こじ・さと

## 《鯉ものがたり》

石清水八幡宮のふもとを流れる放生川流域で殺生禁断の御触れが出ていたころのお話です。

病気の母を思う子どもの気持ち、子を思う母の愛情を表現するため、メンバーそれぞれが台本を書いて読み合い、話し合って、一つにしているところです。話し合っていくうちに登場人物像がだんだんかたまってきたました。

親子愛を描いた素敵なお話になりそうです。

のぶ・こまる・わこ  
まーちん・むら・なお



翌朝にも神事は続きましたが、私は深夜に行われる事が、厳かで尊く松明の光の中で幻想的に感じました。  
昔から続いてきた放生会が、八幡の地域の人々に息づいている事が羨ましく、今度は一般参加してみようと思いました。

たまたばこと

放生会を観て

初秋の闇夜に浮かぶ提灯の火、雅楽の音。

石清水八幡宮の三つの御神体がそれぞれの装束に身を包んだ人々と共に男山を下る。そして、巫女の奉納の舞。

～人形劇まつり

20周年記念公演に向けて～

それぞれのチームでの丁寧な脚本作り。1つ1つの言葉なり心情について、語り合い、疑問点をぶつけ合う中で、各々が同じイマジネーションを持つことができます。

そんな無から有を作り出す過程が大事なんだと思います。今はワクワク感でいっぱいです。プロの先生方の指導の下、おしゃべりも楽しみながら人形劇の奥深さを堪能したいと思います。

くじら 常

9月15日に生きとし生けるものの平安と幸福を願う行事、『放生会』



放生会の様子 八幡市安居橋にて

H.24.9.15

### ～めいさんから～

「作ることは身を削ること。」「考えている時間の積み重ね、みんなで悩むところを通っていこう。」「しんどくなったら前向きに、やりたいけどしんどいと、みんなに言おう。」「見えない行き先をみんなで見ていくこう。」

など、素敵なお話をしてもらいました。

『人形とおはなしの会まある』の大原めいさんの言葉より

### 委員長のつぶやき

紙ふうせんののぶです。連絡会の中で一番若い私が、こんな大役を引き受けていいのかと思いましたが、企画委員長になってしまいました。一所懸命がんばりますので、よろしくお願ひします。

どのグループも少しづつ台本ができてきました。1月5日には『人形劇団京芸』の本田真輔さん1月13日には『人形劇団京芸の谷ひろしさん、1月19日には『人形とおはなしの会まある』の神門やすこさんのワークショップがあります。たのしみです！